令和７年度　第１四半期

中小企業景況調査報告書

令和 ７年　４～　６月期　実　績
令和 ７年　７～　９月期　見通し

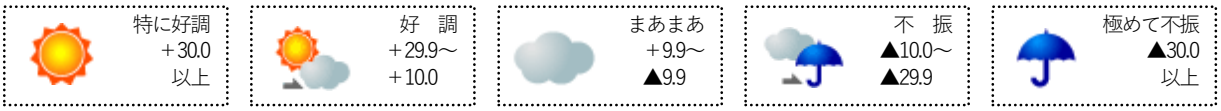
始良市商工会

（令和　７年７月発行）

この調査は，始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

この報告書の中で，用いられているＤ・Ｉ指数とは，ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉



1. 調 査 対 象 期 間　令和７年 4～ 6 月期を対象とし、調査時点は令和７年７月１日とした。
令和７年 7～ 9 月期は予測値となる。
2. 調　査　方　法　商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
3. 調査対象商工会　始良市商工会
4. 回　答　企　業　対象企業　30 企業（※始良市 30 企業を基に指数を表示してあり、あくまでも参考指数と理解下さい。）
製造業：７企業　建設業：７企業　小売業：８企業　サービス業：８企業

県内産業別業況 DI

		製　造　業		建　設　業		小　売　業		サービス業	
対前年同月比	６年　４月～　６月期		▲9.1		7.2		▲27.6		▲2.5
	６年　７月～　９月期		▲16.7		▲7.4		▲19.0		▲19.5
	６年　10 月～ 12 月期		▲9.3		11.1		▲25.9		▲11.5
	７年　１月～　３月期		▲18.6		10.4		▲13.8		▲26.0
	７年　４月～　６月期		**▲12.5**		**16.6**		**▲23.3**		**▲22.4**
	来期見通し(7～ 9 月期)		▲7.4		3.4		▲25.0		▲14.7

総　合(業況)

前年同期（令和 6 年 4 月～6 月期）と比較した今期（令和 7 年 4 月～6 月期）の業況は、製造業▲12.5(前年同期比 3.4 ﾎﾟｲﾝﾄ悪化)、建設業 16.6（前年同期比 9.4 ﾎﾟｲﾝﾄ改善)、小売業▲23.3（前 年同期比 4.3 ﾎﾟｲﾝﾄ改善)、サービス業▲22.4（前年同期比 19.9 ﾎﾟｲﾝﾄ悪化）となった。 また前期（令和７年１月～3 月期）と比較すると、製造業 6.1 ﾎﾟｲﾝﾄ改善、建設業 6.2 ﾎﾟｲﾝﾄ改 善、小売業 9.5 ﾎﾟｲﾝﾄ悪化、サービス業 3.6 ﾎﾟｲﾝﾄ改善となった。今期については、原材料の価格 高騰や従業員不足に加え、米の品薄や価格高騰で小売業・飲食店を中心に個人消費にも影響も出 始めており、今後は、米の価格にも左右されると考える。 なお、来期（令和７年７月～9 月期）の見通し（ＤＩ）は、今期と比較すると、建設業 13.2 ﾎﾟ ｲﾝ

ト、小売業 1.7 ポイント悪化の見通しとなるものの、製造業 5.1 ポイント改善、サービス業は 7.7 ポイント改善の見通しとなる。原材料の価格高騰は続き、酒造製造業においては、特に若者の焼酎離れ で消費低迷による製造減。建設業においては、公共工事の受注減。小売業は、7 月からの食品の 値上げによる消費者の買い控え等、さまざまな要因が需要の停滞をもたらし、引き続き中小企業・ 小規模事業者において利益の確保が厳しい状況が続くと思われる。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数　7 企業

調査対象企業内訳：食料品(2)，窯業(1)，衣類(1)，家具(1)，印刷(1)，ガラス製品(1)

	売　上　額		採　　算		資金繰り		業　　況	
6 年　 4 月～　6 月期		▲14.3		0.0		▲14.3		0.0
6 年　 7 月～　9 月期		▲28.6		▲14.3		▲28.6		0.0
6 年　10 月～ 12 月期		▲14.3		▲14.3		0.0		▲14.3
7 年　 1 月～　3 月期		0.0		14.3		0.0		0.0
7 年　 4 月～　6 月期		**0.0**		**14.3**		**0.0**		**0.0**
来期見通し(7～ 9 月期)		0.0		0.0		0.0		▲14.3

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

・値上げにより、注文数が減り、工場稼働率も低下し、新規取引を増加させる必要があった。
・今後も厳しい状況は変わらないと思われる。
・原材料の仕入れに関して、コロナ禍以前の状況に戻りきれず、原材料を注文しても未だに納期の遅いものがある。

＜経営上の問題点＞

・原材料価格の上昇を問題視している企業が多く、生産設備の不足や老朽化、原材料不足、需要の停滞などの課題を抱えているようである。

【建設業】 有効回答数　7 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)，設備工事業(1)，職別工事業(4)

	完成工事額		採　　算		資金繰り		業　　況	
6 年　 4 月～　6 月期		▲14.3		▲14.3		▲14.3		▲28.6
6 年　 7 月～　9 月期		▲14.3		0.0		▲14.3		▲14.3
6 年　10 月～ 12 月期		0.0		14.3		▲14.3		0.0
7 年　 1 月～　3 月期		▲14.3		0.0		0.0		▲14.3
7 年　 4 月～　6 月期		**14.3**		**28.6**		**▲14.3**		**▲28.6**
来期見通し(7～ 9 月期)		0.0		0.0		▲14.3		0.0

＜経営上の問題点＞

・従業員の確保が難しいと考えている企業が多いようである。
・材料価格の上昇だけでなく、材料費・人件費以外の経費の増加への懸念がある。

【小売業】 有効回答数　８企業

調査対象企業内訳：飲食料品(3)，衣服(1)，各種商品(2)，その他(2)

	売 上 額		採　　算		資金繰り		業　　況	
6 年　 4 月～　6 月期		▲50.0		▲25.0		▲12.5		▲50.0
6 年　 7 月～　9 月期		▲62.5		▲25.0		▲62.5		▲62.5
6 年　10 月～ 12 月期		▲75.0		▲25.0		▲75.0		▲75.0
7 年　 1 月～　3 月期		▲37.5		▲25.0		▲75.0		▲75.0
7 年　 4 月～　6 月期		**▲50.0**		**0.0**		**▲37.5**		**▲50.0**
来期見通し(7～ 9 月期)		▲25.0		▲12.5		▲37.5		▲37.5

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

・消費者ニーズに対応しきれていない。

・デジタル化等の導入が遅れており、生産性向上への取り組みが進んでいない。

＜経営上の問題点＞

・仕入れ単価の上昇を問題としている企業が多い。

・消費者ニーズの変化を実感している企業も多く、それに対応しきれないことを問題としている。

【サービス業】 有効回答数　８企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)･理美容業(3)，飲食店（2)，その他(1)

	売 上 額		採　　算		資金繰り		業　　況	
6 年　 4 月～　6 月期		0.0		▲37.5		▲12.5		12.5
6 年　 7 月～　9 月期		25.0		▲12.5		12.5		12.5
6 年　10 月～ 12 月期		37.5		▲12.5		▲12.5		25.0
7 年　 1 月～　3 月期		▲12.5		▲25.0		▲50.0		▲12.5
7 年　 4 月～　6 月期		**12.5**		**▲12.5**		**0.0**		**0.0**
来期見通し(7～ 9 月期)		12.5		▲37.5		▲25.0		▲37.5

＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

・生活内容が一変し、需要の低下が止まらない。新しい商品への取り組みも難しい。

・インバウンドの来客が見込めるのは、観光スポットと都市部に集中しており、地方にも何の影響もない。

・外食産業は厳しい状況になっていくと思われる。

＜経営上の問題点＞

・人件費の増加や材料等仕入単価の上昇を問題視している企業が多いようである。

・従業員の確保が難しいという懸念があったり、人件費以外の経費も増加しており課題だと感じている企業もある。

《参考となるその他の景況から》

２０２５年７月１日
日本銀行鹿児島支店

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、緩やかに回復している。観光は、緩やかに回復している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、高水準で推移している。生産は、弱めの動きとなっている。

企業部門の動向を短観（６月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）でみると、設備投資は、増加している。

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

【各論】

１．個人消費

百貨店・スーパー販売額は、前年を上回って推移している。家電販売額は、前年を上回った。

乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

２．観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回って推移している。

３．公共投資

公共工事請負金額は、前年を上回って推移している。

４．住宅投資

新設住宅着工戸数は、分譲を中心に前年を下回った。

５．生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、食料品、汎用・生産用機械を中心に前月を上回った。

６．雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、上昇した。

現金給与総額は、前年を上回って推移している。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

７．物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

８．金融面

預金は、前年を上回った。貸出金は、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、前月を上回った。

企業倒産件数は、前年並みとなった。